

しょだいぶ

諸大夫の間(鶴の間)の障壁画

観 殿

ふすまえ

参内した人の控えの間に、襖絵に

ちなので、格の高い方から、虎の間・鶴の間・桜の間と呼ぶ3間が並んでいます。

「諸大夫の間」というのは元々桜の間のことでしたが、3間の総称となっています。

かのうえいがく

鶴の間の襖絵制作者は狩野永岳

で、狩野永徳の弟子狩野山楽に始まる京狩野派の九代目です。



永岳の描いた障壁画は他に、御学問所 上段の間 じゅうはちがくしとうえいしゅうず 殿 (十八学士登瀛州の図)、

御常御殿 上段の間 ぎょうにんけんとちず 殿 (堯任賢図治図)、一の間 殿 (朗詠の意)、

皇后御殿 御小座敷上の間 い (三保の浦春の富士) などがあります。



こふん

諸大夫の間の障壁画は、麻布の表面を胡粉で仕上げた(油彩画のキャンバスに近いもの)上に、墨絵淡彩で描かれています。鶴の間は東西南北に各4面の襖があり、そこに鶴は全部で37羽描かれております。そのうち南面の7羽は飛んでいます。

* 南面の襖絵は参観場所から裏側にあたるため、見るできません。